

# 万が一の保険、サポートするための代理店

## 損保協会・埼玉代協 地震防災・減災シンポジウム開く

損保協会北関東支部と埼玉代協は1月12日、埼玉新聞社と共催で「地震防災・減災シンポジウム」を開催した。大規模な自然災害が少ない埼玉県だが、万が一の際の被害を少なくするために日頃の備えが重要となる。シンポジウムでは、防災の専門家らが日頃の備えの必要性を喚起するともに、行政の担当者がさいたま市の取り組みを紹介。自助の重要性を訴え「自分事として捉え、自ら行動してほしい」と呼び掛けた。会場となったさいたま市大宮区のTKPカーテンシティPREMIUMには、1300人余りの県民が参集し熱心に聴講した。

### 成功事例ではなく 失敗事例から学ぶ

主催者挨拶で登壇した損保協会北関東支部委員長の川地邦夫氏は、地震に対する備えや被災した場合の対応などを学んでほしいとシンポジウム開催の主旨を述べた。引き続き挨拶に立った日本代



挨拶する清水埼玉代協会長



パネルディスカッション (左から山崎氏、秋沢氏、高埜氏、佐藤氏、室崎氏)

協副会長の横山健一郎氏は代協の活動を紹介した。上で、万が一の際に役立つと強調した。

「恐れる・正しく備える」ことが重要となっているという。同氏は、自然災害は一つとして同じものはないと強調し、臨機応変が大切、成功事例ではなく失敗事例から学ぶ、科学の未熟を踏まえた悲観的な想定が必要との見解を示した。その上で、地域コミュニティの大切さを説いた。

まず、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科の室崎益輝教授が「地震災害に備え、正しく恐れ、正しく備える」と題して講演した。阪神・淡路大震災以降、被害最小化のために「正しく学ぶ・正しく

機管理部防災課課長の高埜隆氏の4氏。佐藤氏は「地震保険に関するプロシエクトチーム」座長を務めた立場から地震保険の重要性を訴え、秋沢氏や高埜氏は報道、行政それぞれの立場から万が一の際の備えや行動について見解を示した。また質疑応答では、会場から自治会の在り方や、個人情報保護によって救助を必要とする人がどこにいるのか分からないといった深刻な問題も寄せられた。

### 神奈川代協

## 今年度の認定取得者は31名

### 認定証授与式と新年会を開催

神奈川代協(雨宮豊会長)は1月16日、横浜市のマリントワーホールで、2018年度損害保険トータルランナー認定証授与式と新年会「新春の集い」を開催した。同代協での今年度の損害保険トータルランナー認定取得者は31名。授与式では、代協会員や保険会社社員などが認定取得者を祝した。



出席した認定取得者

授与式に先立ち行われた主催者挨拶では、体調不良で欠席した雨宮会長の挨拶文を神奈川代協副会長の三ヶ尻明広氏が代読。「最高峰の募集人資格取得者としての自信と

誇り、責任を持って、日々の活動に努めてもらいたい。私たち代協会員は代協からたくさん情報を受け取っている。せっかくなので正しい情報は生かさなければいけない。取得した情報を整理、分類、分析するところまで踏み込んでもらいたい」と呼びかけた。

来賓からは損保協会南関東支部神奈川損保協会の野村幸一郎会長と日本代協の小平高義副会長が挨拶。金銭庁が標榜する顧客

と説明することの違いを、どなたが私たちが理解しながらお客様と日々接するかどうか大事なことだと思ふ。こうしたことを実現するために、皆さん個人というよりも代理店組織として鍛錬を図ってほしい」と求めた。

小平氏は金融行政の動向について「金融庁は検査局を廃止し、金融検査マニュアルも廃止する予定だ。このことは金融庁による検査が甘くなることは決してなく、金融行政による対話

認定証授与式では、当日出席した6名の認定取得者一人ひとりに損保協会から認定証が手渡された。

新たな損害保険トータルランナーを代表して挨拶した田中潤氏(株式会社ワイズエージェンツ)は「資格取得にあたり学んだことは日々の活動の中で大変役に立っている。また受講している人はぜひ、この名誉ある資格を取得してもらいたい。一方、資格取得している人は、この資格を一般の人にも認知してもらえるように取り組んでいきましよう」と述べた。

その後、「新春の集い」に移り、参加者間で親睦を深めた。